



奥只見へバス旅行

わ だ ち

31年1月

特定非営利活動法人
加茂市手をつなぐ育成会

今 思 つ く こ と

特定非営利活動法人加茂市手をつなぐ育成会

理事長 皆川 栄子

明けましておめでとうございます。
亥年の幕開けであり、新しい年号
に変わる年でもあります。

昨年は、日本列島自然災害に見舞
われた年でもありました。毎年何ら
かの避難を必要とされる災害が発生
しています。そのたびに避難所での
過ごし難さが報告されます。報告を
聞くにつけ、我が地域はその時どう
か？と思わずにいられません。本
人、家族が不条理な思いをしなくて
もすむ様、行政を交えて考えていか
なければと思っています。それにし
ても、被害に遭われた方々の1日でも
早い復興を願っています。

今年も永遠のテーマである『親亡
き後』について皆で真剣に考える年
にしませんか？『親亡き後』は死語
にしましょう。是非そういう時代にな
ってほしいと思います。それ
には『今親としてやっておくべきこ
と、心がけること』があるはずで
す。一昔は親が死んだら入れる入所施設
が欲しいよね。ということ、実現
はしませんでしたが入所施設建設に
向かって活動をしていました。今は
入所施設から地域にという考えに変
化してきました。障がいをもった本
人が親亡き後地域で暮らす事は簡単
にできるものではありません。昨

年、県育成会主催の会員研修で日
本相談支援専門員協会顧問、長野
県自立支援協議会会長の福岡 寿
先生の講演でまず本人を取り囲む
支援者を多く作ることこれが一番
大切。それには自立支援協議会の
本気度がキーワードになる。自立
支援協議会がしっかり機能してい
る地域では本人が望む暮らしが組
み立てられていく。みんなが実現
できる加茂市にしませんか？自立
支援協議会が無いのは加茂市だけ
「しようがないよね」ではなく、
諦めるのではなく、行政に必要性
を訴え、まず設立することを目指
す年にしたいと思えます。我々に
とって必要な協議会です。保護者
も勉強する年にしましょう!! 5年
後、10年後、20年後の我が子の幸
せを信じて!!
今年も

● 自立支援協議会を立ち上げて
もらうこと。

● 仮称『第二雪橇の舎』の建設
に向けて全力をそそぐこと

この2つの実現を目指し、理事
をはじめとして会員全員で取り組
む年にしましょう。

今年が会員の皆様にとりまして
幸多い年でありますように!!

施設建設促進委員会活動報告

関 龍雄

この一年間、特別な成果がなく、申し訳ないと思われ、皆様にお詫び申し上げます。新作業所の建設用地として消防署裏の市有地を指定していただきました。

県立加茂病院病棟の建設が遅れ新病棟の完成が今年の秋と言われております。新病棟も外観が覆いを外され素晴らしい姿を現し始めました。内装工事がこれから始まります。そのあと、旧病棟の撤去、病院駐車場の建設となります。現在消防署の裏の市有地（施設建設予定地）を加茂病院職員の仮設駐車場として使用しておりますので院内職員駐車場の完成がいつ頃になるのか、工事工程表を調べているところです。

院内駐車場の整備の進行と合わせて院外の仮設駐車場の撤去が進むと考えますが、消防署裏の市有地の優先返却をお願いしていきたいと思っております。

一方、厳しい市の財政状況ではありますが、施設の規模や内容を創意工夫して総額の圧縮を図り、新年度に国や県の制度利用による補助金の申請をして二十二年度中をめどに建設を目指したいと考えております。なかなか進捗が遅く歯がゆい思いもあると思っておりますが、今の状況を理解いただいております。お許しを頂きたいと思っております。

相談支援で思うこと

相談支援専門員 高野 幸

今年度、4月より相談支援を担当しております。高野 幸です。平成24年4月の障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）・児童福祉法の一部改正により、障害福祉サービスを利用する全ての方にサービス等利用計画を作成することになりました。支援を必要としている方と福祉サービスを結びつけることが相談支援専門員の仕事です。

「人の話をよく聞く事」が一番大切だと思っています。障害といっても一人一人特有のものがああります。家庭の事情も異なります。そうした個々の事例に耳を傾けるのが相談員の役割だと思っています。

加茂市以外の市町村で福祉施設に勤めていた私は、加茂市の福祉サービス、社会資源の乏しさにびっくりしました。他の市町村では複数のサービスを利用している方が多



新年お楽しみ会



育成会総会

バス旅行の感想

今年も行ってきました。奥只見遊覧船に乗って、おいしい空気と素敵な景色を眺めながら…近年は毎年参加させてもらっています。世代を越えて同じ境涯を歩んでいる親達と、そして子供達が一緒になって活動できる場は貴重な場だと思います。いろいろな話を聞きながら、また話を聞いてもらったりと楽しい一日を過ごせました。何よりも子供達が嬉しそうにしている姿を見れるのが一番幸せです。

久保 敏美



「今、思うこと」

息子が生まれた日、すぐに手術しなければ助からない命と言われ、喜び以上の不安で震えていた事を昨日のように覚えていきます。あの日から18年経ち、現在息子は特別支援学校高等部3年生となりました。大好きな人達の中で毎日幸せそうに過ごしています。生まれた日から今日まで周りの方々に愛され、ここまで育てて頂きました。

木村 裕美

この笑顔が消えぬよう、今後、今以上に加茂市の障がい者施設が充実され私達親子後、この加茂市で地元のお仲間の皆さんと安心して人生を送っていけます様、それが一番の願いです。

くいらっしやいます。例えば、生活介護事業所に通いながら、短期入所も利用したり、移動支援を利用して放課後等デイユビスに通ったり、生活介護事業所を二か所利用したりと様々です。しかし、加茂市にはまずその選択肢になる事業所がないのです。相談員としてサービスを必要としている方をつないであげられる事業所が少ないのです。加茂市の障害サービス充実の為に声をあげられるのは保護者や育成会のメンバー、障害者に携わっている職員だと思っています。障害者に関わりがない人は中々声をあげないと思います。困っていることがある人、障害を持った人を笑顔にしたい人、介護負担を軽減させたい人、支援の現場にいる人が声をあげていくしかないのです。縁があつて、障害者と関わることが出来る仕事に就いている私もできることには協力したいです。相談支援専門員としてまだまだ駆け出しではありますが、何かありましたらいつでもお声掛けください。よろしくお願い致します。

会員研修会に出席しての感想

速水 尚美

講演 「親亡き後のために、今親としてやっておくべきこと、心がけること」

グループ討議「これからを、そして親亡き後をどう考えていますか？」

健康なうちは良いが、私が倒れたらこの子はどうなるのでしょうか。

講演会では、親の意識改革が必要。まわりが決めるのではなく、本人の心が動く方向へ。誰かの何かの役に立つ、喜ばれる、助けられることで、やった！できた！明日もと思う事が出来ること。親が子離れし本人中心に決める大切さを話していました。

グループ討議では親ならではの話が活発に行われ、先輩から後輩へ物語を語る場になりました。実のある二日間、有難うございました。



雪椿の舎の職員として

生活支援員 阿部 奈美子

雪椿の舎に勤め、間もなく一年を迎えようとしています。以前は児童支援員や介助員として働いておりました。雪椿の舎では生活介護の生活支援員として、十一月からは相談支援専門員との兼務で勤務しております。

この一年は『学ぶ事』を意識して過ごしてきました。様々な研修に参加したり、日常を過ごしたりする中でたくさん学びがありました。

学んできた中で自分自身が特に心がけている事は、チームで動く事です。利用者様一人一人を見るにも多くの目で見たいければ沢山の発見があり、その発見をこれからの支援に活かすことで、利用者様がよりやりがいを持ち楽しく通舎できるのではないかと考えたからです。

今後も学ぶ姿勢やチームで動く事を大切に、利用者様が楽しく生活を送る事ができるようサービスの提供を行いたいと思います。

雪椿の舎に勤めて

生活支援員 捧 貴道

雪椿の舎の生活介護にて生活支援員として勤務し半年となりました。前職は高齢施設に勤務しておりました。この半年を通して、様々な利用者様と過ごす中で、多くの「その人らしさ」に触れ、考えた事があります。

我々は自分の人生を「こうありたい」と思いながら生活している人が多いと思います。

自分が何をしたいのか、どうすれば生活の質を高める事ができるのだろうか。

自分が利用者様と関わる際、常にその方の「こうしたい」という思いに気付く事ができるような姿勢で臨みたいと考えています。そのために、表情やことば、行動の端々に隠れた思いを見逃さないようにしたいと思います。

利用者様一人ひとりが雪椿の舎でいかに充実した気持ちで過ごしていただけるか。また、雪椿の舎での体験をきっかけとして、「こうしてみたい」と思っていただけのような関わりができるよう、日々努力していく所存です。

雪椿の舎の職員

としての思い

生活支援員 石附 芳則

雪椿の舎に勤め始め、はや九月が経ち、ようやく施設の雰囲気にも慣れて来たところです。

以前は、長岡の障がい者施設に勤務をしていました。そこで、多くの障がいの方と一緒に、パン作りやお菓子作りや施設外就労にも携わって来ました。障がいのある方を支援する事はとても大変な事です。障がい者が元々持っている能力を引き出す支援を行って来ました。

雪椿の舎でも、いろいろな障がいを持つていらっしゃる方がおられます。障がいを持つ方々の力となり、能力の引き出しを行ない、自信につなげられよう支援していきたいと思えます。また、障がい者や職員が楽しく過ごせる環境づくりに、作業や行事等に積極的に参加できるワクワクした施設づくりを目指していきたいと思えます。

雪椿の舎での

「サービス」

生活支援員 田村 恭子

30年3月より雪椿の舎に勤めさせて頂いています。

以前は介護福祉士としてホームヘルプを行っていました。ここでは、勤務時間の事は「サービス時間」「サービス中」と呼んでいます。雪椿の舎での「サービス時間」はとても楽しく過ごさせて頂いています。では、実際に私の行なう福祉「サービス」を受ける利用者様は楽しんでいるのか？と言われると疑問符が付くのが現状ではあります。しかし、日々疑問符を付ける事で、サービスが自己満足にならないよう、「自分は正しい」と勘違いしないようサービスを行なっていきたいです。利用者様が雪椿の舎で「サービス」を受けている事を幸せに感じ、誇りに思えるように努めていきたいです。

社会見学 (マリリンピア)



編集後記

会報「わだち」第五十三号をお届けします。育成会・雪椿の舎の活動、様子を伝えました。原稿をお寄せ頂きました皆様、心より感謝申し上げます。この広報紙が皆様の心をつなぐ事ができることを念じています。